

サテライトオフィスの取組 にしあわ学舎

事業のポイント

■ にしあわ学舎は平成27年3月、三好市井川町(三好市役所 井川支所)に設置。県西部2市2町(美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町)を対象に地域を支える人材の育成や課題解決等の事業を行う。

事業代表者・連絡先

田中 俊夫 (徳島大学人と地域共創センター・センター長)

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880

e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

●にしあわ資源探索ツアー ～ヒト・コト・モノ～

にしあわエリアは、桃源郷とも称される山間部独自の景観や、自然、伝統、食文化にふれることができる地域である。そんな中でも今回は「つるぎ町」にフィーチャーし、地域創生の要となりうる現地の資源を探索するツアーを実施。地域創生を学ぶ大学の1年生6名が参加した。

アウトドアガイドを営む方から、ご自身のライフストーリーや、生業の拠点を置かれているつるぎ町の歴史や現状、未来についての想いをお伺いし、「巨樹王国」としてのまちの魅力にふれるスポット巡りを2日がかりで行った。急斜面のトレッキングを経てたどり着いた巨樹の1つは、普段ほとんど人の訪れない山中にあり、道中の緊張感と到着後の達成感を参加者一同で深く感じる体験となった。

●中山間地域における福祉を通じた共生社会実現に向けた支援事業

本事業は、三好市を事例として、徳島県の中山間地域に暮らす福祉による支援が必要な人びとに焦点を当て、地元関係者との交流により実情を把握しつつ、誰もが支え合える共生社会の実現に向けた支援を行うことを目的として実施している。本年度は、主に以下の活動を行った。

① 箸蔵山荘の関係者を訪問し、当地の実情をヒアリングし、また三好市身体障害者会関係者とも、今後の連携の可能性について、協議を行った。

② 11月には、みよし障害者連絡協議会主催の研修会(於:青空ホール)において、「インクルーシブ教育の考え方とわが国の特別支援教育～国際連合の勧告をめぐる議論から～」という演題で講演を実施した。

③ 三好市社会福祉協議会山城支所と連携し、二層協議体による(不登校児を含む)児童らの居場所づくりの活動において、大学の人と地域共創センター 鈴木尚子准教授がアドバイザーとして就任し、今後の会議や活動に参加し、学問的見地から助言等を提供していくこととなった。

つるぎ町巡り活動報告

どんなところに興味を持っていたか? (行く前)

- つるぎ町のアピールポイントには何があるのか
- 巨樹はどれくらい大きいのか
- つるぎ町にどのような観光資源があり、足りないものは何なのか

印象に残ったことは? (行った後)

巨樹: 写真以上の迫力で、山の中の静けさや紅葉の美しさと、巨樹とがマッチして神秘的だった。自分たちで実際に巨樹の大きさを測ることができて貴重な体験になった。

巨樹までの山登り: 巨樹までの道のりはもっと整備されていると思っていた。想像以上に険しい道のりだったが、道なき道を行くのは普段はできないことだったのでとても楽しかった。

ツアーの良かった点

- 普段見れないものを見たり触ることができ、非日常的で貴重な体験ができた。
- 牛屋さんの安心感がすごく、山の中でも怖くなかった。
- リアルなアウトドア体験ができてよかった。

改善できそうな点

- 巨樹への道の急斜面がわからなかった
- 事前にツアーで行くところの危険な場所の説明や難易度の提示
- 事前に服装や荷物を準備できるようにツアー内容の詳細の説明する
- アウトドアだけでなくレジャー産業の活動も発展でもよいかもしれない
- 安全・気軽に楽しみたい観光客をターゲットにできる

つるぎ町の観光振興や地域創生への考察・提案

意見を出し合った結果、巨樹に関連することとつるぎ町全体に関連することに分けられた。

巨樹関連	つるぎ町関連
<ul style="list-style-type: none"> 景観を壊さないような道の整備 道のりにチェックポイント設ける 巨樹とレジャーを掛け合わせた産業 行きやすい巨樹を推したず 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日山に登り、Instagramに投稿 飲食店などにツアー紹介の雑誌を置いてもらう Instagramで毎日投稿したり飲食店に雑誌を置いてもらうことで、多くの人の目に留まる機会が増え、つるぎ町には巨樹があるという情報が広まり、知ってもらうきっかけになる

つるぎ町地域の暮らしを巡るツアー

商店街・ケープルカー・農業など、つるぎ町で独自に発展したものやそこにはない魅力というものもツアーに組み込むと、つるぎ町がどのようなかを感じられ、そこに興味を抱き訪れる人が増えるかもしれない

活動まとめ(作成:ツアー参加学生)

サテライトオフィスの取組 上勝学舎

事業のポイント

- 地域の若手人材育成と持続可能な発展を目的とした教育・研究活動を実施
- 学生と地域の接点を生み出す合宿型地域学習プログラムや、地域内外の様々なアクターと連携しながら地域のニーズに応じたプログラムを展開

事業の概要

1. 事業の目的

地域の活力となる若手人材の確保や育成を主目的とし、地域の課題解決や持続可能な発展を目的とした教育・研究活動を展開する。

2. 事業の取組内容

(1) ライフデザインワークショップ

ライフデザインワークショップは、学生が上勝町での暮らしや仕事を体験しながら、自身のキャリアや生き方を考える合宿型地域学習プログラムである。参加した学生は、若者の視点から上勝町の魅力や課題を分析し、報告書としてまとめる。この報告書は、移住政策や地域活性化の施策に活用される価値を提供している。



(2) E-Bike を活用したサイクルツーリズム推進プロジェクト

本プロジェクトでは、上勝町の自然や文化を巡るツアーを提供し、地域活性化や観光振興を目的とする。また、自転車交通の活用推進について研究する矢部拓也教授（人と地

事業代表者・連絡先

田中 俊夫 (徳島大学人と地域共創センター・センター長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

域共創センター兼務教員)と連携し、E-Bike の活用やガイド人材の育成に取り組む。今年度は、大学生がガイドを務めるモデルツアーを実施し、地域住民と協力して観光客の受け入れ体制を整えることで、持続可能な観光業の確立を目指している。



(3) 射手座造船所出港プロジェクト

「射手座造船所」は、地域住民とアーティストが協力して作り上げたアート作品である。本プロジェクトは、作品の老朽化による展示終了及び解体に伴い発足されたもので、主な取組として、アート作品そのもののアーカイブ化及び関わった地域住民の想いの記録を進めた。これにより、地域住民の参与とアートの関わりを振り返り、地域振興におけるアートの意義を再確認することを目的とする。本事業は、東京藝術大学未来共創センターと連携し、取組を進めている。



3. 今後の展開

地域との密なコミュニケーションのもと、大学と地域、双方にとって価値ある域学連携プロジェクトが実施可能な体制構築を継続して行う。

サテライトオフィスの取組 徳島大学・美波町地域づくりセンター

事業のポイント

- 人口減少、津波防災などの課題を抱える美波町において、大学、地域行政、住民との連携を推進し、美波町における地域づくりをすすめることで、大学における地域貢献拠点としてのモデル発信を目指す。

事業の概要

1. 事業の目的

当センターは、平成 25 年 7 月に、徳島大学と美波町との「持続可能なまちづくり」をテーマとした連携協定の活動拠点として、美波町役場由岐支所 3 階（令和 3 年 11 月 1 日より美波町地域共創センターに移転）に開設した。徳島大学と美波町が連携し、知的・人的資源の活用と交流を図り、相互に協力して地域の発展と人材の育成に寄与する。

2. 事業の取組状況

① 教員が駐在し研究活動の実施

当センター事務室に教員が駐在し、美波町由岐湾内地区における事前復興まちづくり活動の参与型分析を行っている。令和 6 年度は、第 49 回海洋開発シンポジウム（2024）等で発表を行い、2024 年度日本環境共生学会奨励賞を受賞した。

② 持続可能なまちづくりに関するシンポジウムの開催

持続可能なまちづくりの啓発や交流を兼ねたミニシンポジウムを開催している。令和 6 年度は、「徳島大学美波町サテライトオフィス健康寿命からカレッジ mini」（2月6日、13日、20日、27日）、「令和 6 年度徳島大学地域交流シンポジウム」（3月2日）、「令和 6 年度第 6 回在住外国人を対象とする防災ワークショップ in 美波」（3月23日）を主催し、「令和 6 年度美波町自主防災会連合会防災講演会」（3月27日）に協力した。

③ 『美波共創塾』の運営

令和元年度より、美波町と徳島大学が協働で、「美波町の将来像を実現するために、多様な主体と新しい価値を「共に「創」り上げていくオープンな場」として、『美波共創塾』の運営を行っている。令和 6 年度は、(1) 地域自治を担うリーダー育成において、地域住民を対象に『美波共創塾』の新規募集を行い、31 名の塾生と地域づくり勉強会・情報共有会または塾生の交流会を計 5 回開催した。(2) 地域住民と協働する職員育成において、『美波共創塾通信』を発行した。(3) 地域の宝である次世代育成において、日和佐小学校 5 年生を対象に、総合的な学習の時間を活用した年間カリキュラムを作成、計 25 時限、延べ 380 名に授業を行った。また、由岐小学校 4～6 年生や由岐中学生を対象に、小中合同防災デイキャンプをはじめ計 20 時限、延べ 330 名に授業を行った。なお、由岐小学校は防災教育や防災活動に積極的に取り組んでいることが評価され、令和 6 年度「徳

事業代表者・連絡先

田中 俊夫 (徳島大学人と地域共創センター・センター長)
〒779-2103 徳島県海部郡美波町西の地字大谷48-1
(美波町地域共創センター)
tel / fax: 0884-70-1274
e-mail: tokushima-minami@tokushima-u.ac.jp

島県まなぼうさい活動賞」を受賞した。さらに、UR 都市機構と協働で、美波町内の親子の防災力向上と美波町での防災教育プラットフォームの構築を目的に、美波町防災教育プログラム連携支援事業として、美波町婦人会、美波町の歴史を掘り起こし地域振興を図る協議会「遊元快者」、美波町社会福祉協議会の連携・支援を行い、「子ども防災クッキング」「日和佐浦防災謎解き街歩き」「みんなで体験災害時の知識と技術を学ぶ」「高台整備見学ツアー」「美波夜市」の計 5 回の防災教育を実施した。(4) 町外の交流・関係人口の創出において、『由岐湾内地区防災ツーリズム MAP』を活用して視察研修の受入を行った。

④ 美波町の自主防災活動の支援

由岐湾内 3 地区自主防災会連合会の事務局支援を行っている。避難まつり 2024 (4月29日)、西の地子ども会夏休み防災&サイエンス教室 (8月6日)、西の地防災きずな会防災サタ (12月25日)、西の地防災きずな会設立 20 周年記念総会 (2月23日)、西の地防災きずな会地区防災計画策定等の支援を行った。

⑤ 美波町地域づくりの支援

令和 2 年度に発足した美波町由岐湾内地区の任意団体「美波の SORA」に参画し、SORA カフェ・SORA キッズデイの開催、ふるさと教育等を行った。

⑥ 徳島県南の防災まちづくりの支援

令和 6 年度牟岐町防災サークル防災キャンプ、令和 6 年度牟岐町地震津波避難訓練、穴喰小学校防災学習等の支援を行った。

⑦ その他 (講師、委員等)

徳島県内外での防災まちづくりに関する講演会等の講師を務め、また徳島県県土強靱化・レジリエンス推進計画推進委員会をはじめ各種委員会等に出席した



サテライトオフィスの取組 那賀町地域再生塾

事業のポイント

■ 那賀町で活動している「地域再生塾」に更に学習の機会を提供し、より効果的な市民活動となるように積極的な展開を促すほか、那賀町と連携した地域活性化に取り組む。

事業の概要

1. 事業の目的

那賀町の地域再生塾は、町おこし団体「那賀人-Nacord-」との協働を通じて、那賀町における地域再生人材育成、地域活性化に取り組んでいる。

2. 事業の取組状況

● 丹生谷歴史ミステリー「邪馬台国と空海」

町村合併前の那賀町地域を示す名称・丹生谷（にゅうだに）の歴史を、弘法大師・空海や邪馬台国との関係から読み解く講演会を町内で開催した。阿波古事記研究会の吉岡誠氏、真言宗萬福寺和尚の鈴木泰祥氏の2名からの講演に、約20名の来場者一同は興味深く聞き入っていた。

終了後のアンケートには次回を期待する声や、町内緑の地を巡るツアーの開催を望む声が複数寄せられたため、令和7年度にも同テーマのイベントを地域再生塾で企画・開催する予定である。



● なからく～那賀で楽しくはたらく～（通年）

「なからく」は、那賀町の仕事を体験しながら余暇時間にはSUP等のアウトドアを楽しみ、一般的な旅行よりも深く町の魅力にふれることのできる、学生向けの滞在型プログラムである。町の宿泊施設・農作業の繁忙期に開催することで、町内の働き手不足への対処にも繋げている。2年目となる今年度は、GW・夏季・秋季の3回実施した。

参加者アンケートを行ったところ、総合満足度は総じて高く、8割以上（14名中12名）の参加者が「期待以上の内容だった」と回答した。その他の感想を以下に紹介する。「どんなところに興味をもって参加したか」の回答例：「那賀町に行ったことがなかったためどんなところなのか興味

事業代表者・連絡先

田中 俊夫（徳島大学人と地域共創センター・センター長）
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

を持っていた」「去年から参加していて、人の良さ・暖かさに触れられるところ。空気が好き。第2の故郷になりました!」「The Yuzu Harvesting experience and leaving my routine as a foreign student was very interesting」

仕事体験の感想の例：

「I can learn so many interesting things and the owner is so enthusiasm」「普通に生活してはなかなか出来ない経験だったので参加してよかったなと思いました!」

余暇活動の感想の例：

「A delicious night with a full star sky」「最初から最後まで調理体験させて貰えて、帰りにお土産も頂けてとても充実した体験会だったと思います!!」

このように、参加学生は滞在しながら種々の学び・楽しみを得ていることが確認できた。引き続き、学生の受け入れ体制をより良い形にしていくことが今後の課題である。



● 那賀町蟬谷集落の記憶のアーカイブ化

那賀町木頭地域にある蟬谷集落は、かつて平家の落人がセミの鳴き声を頼りにこの地を見つけ、住み着いたとの言い伝えが残る集落であるが、現在は90代の夫婦と60代の男性の2世帯3名となった。集落の維持は難しく住民らの撤退が検討されているが、歴史ある集落を閉じることへの住民の無念は大きい。こうした状況の住民に寄り添いつつ、個々の集落の固有の生活文化史に価値を見出す視点を生起することを目指し、オーラルヒストリー、古写真、映像、芸能、集落空間等、多様な側面から、記憶を記録として残すための取組を進めている。令和6年度は関心を持つ住民を集めて取組の方針を話し合う「蟬谷を語る会」を実施し、参加メンバーへの動機づけを行った他、古写真の収集とオーラルヒストリーの聞き取りを実施した。

サテライトオフィスの取組 神山学舎

事業のポイント

■ 神山学舎は平成27年5月、神山町（神山パレー・サテライトオフィス・コンプレックス）に設置。若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指す。

事業の概要

● 水質浄化池をまちへひらくプロジェクト

神山町の創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」の一環として整備された「大埜地の集合住宅」に設けられた水質浄化池を介して、かつて暮らしの根幹にあった鮎喰川へ人びとが再び意識を向けることをめざした活動である。「一般社団法人・神山つなぐ公社」と本学の環境衛生工学研究室、都市デザイン研究室が協力し、月例の環境調査や、池周辺の望ましい維持・管理のあり方について研究に取り組んでいる。令和6年度は、本活動の3年目となった。

令和6年3月、「池のほとりでポスターセッション～水質浄化池から、川と暮らしのつながりを考える #3～」を現地にて開催した。水質浄化池とその周辺を卒業研究のフィールドとした2名の学生の研究成果の紹介と、その後輩学生らによる来場者参加型企画「コモンでレッツ、音あつめ!」を実施した。より詳細なレポートは下記ウェブサイトにて閲覧可能である。

<https://akuigawa.com/letter/2776>



ポスターセッションの様子

事業代表者・連絡先

田中 俊夫（徳島大学人と地域共創センター・センター長）
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

なお、本プロジェクトに由来する共創的研究の展開として、「大埜地の集合住宅」でも実践されている、その土地らしい風景を育んでいく手法としての「選択除草」について、JSPS 科研費「共用緑地空間の維持管理手法としての選択除草に関する研究」（研究代表者：森田椋也（人と地域共創センター・講師））が本年度から始動している。県外他地域の選択除草を導入している緑地の事例調査・比較分析や、選択除草の普及啓発のあり方について研究が進められており、この成果についても今後、地域への還元が図られていく見込みである。

引き続き、同連携の取組の場を本学の教育・研究面で活用していくとともに、地域・大学の共創による新たな価値が生まれる舞台として活用していきたいと考えている。



作業風景



集合写真（2024年10月26日の作業参加者一同で）

地域連携・課題解決の取組

事業のポイント

■ 地域連携による課題解決、価値創造、地域再生人材育成、実践モデル教育・研究、拠点形成、地域活性化イノベーション・プラットフォームの構築のための実践的な取組を行う。

事業の概要

1. 事業の目的

地域活性化を目的としたイノベーション・プラットフォーム「フューチャーセンター A.BA」を拠点とした地域の課題解決や価値創造のための実践的な取組等を実践している。

2. 事業の取組状況

● Tokudai Hospital Art Labo

昨年度に引き続き小松島市の知的障がい者のグループ「ひまわり会」とマスキングテープアートのワークショップを行い、9月に学生や地域の方々も交えて小松島みなと交流センターのガラス面の装飾を行った。同日は川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科の教員・学生約40名も近隣の事例を見学し、制作にも参加した。また徳島県社会福祉事業団の施設「希望の郷」でも入居者とワークショップを重ね、施設内の喫茶室や作業室、食堂などにアートを設置した。1月下旬には徳島県立近代美術館の特集展示「Look @ コラージュ」展に関連して、医療・福祉施設の利用者と美術館とのつながりを生むイベントを三種類共催した。



小松島みなと交流センター(2024年9月)

● 生物観察教室

令和6年8月24日に、実験を通して生命の神秘を実感し生き物や理科に興味を持つ子供たちを増やすことを目的とし、生き物に興味のある県内の小中学生を対象に教室を開催した。教室では、カエルの人工授精や、少し発生の進んだ卵の顕微鏡観察やスケッチ及び、プラナリアの再生の実験を行った。またカエルやイモリに自由に触れるふれあい体験も行った。参加者や保護者のアンケートからは、子供たちがこの教室を大変楽しんだ様子が伺われた。

事業代表者・連絡先

田中 俊夫 (徳島大学人と地域共創センター・センター長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp



ふれあい体験
(かえる)

● 徳島ロボットプログラミングクラブ

(開催日) ロボットコース：夏季8/11、8/18、8/25、春季3/2、3/9、3/23

ロボットやプログラムの製作を通して、メカトロニクス・ICT技術等に対する興味・関心を深めることを目的として、地域の小学3年生～6年生を対象に、大学生によるTAとともにロボット教室を夏季に3回開催した。受講生は13名であった。また、例年冬季に行ってきた講座を今年度は3月に3回開催した。講座を通して、参加した小学生が、ものづくりやプログラミングに興味を深めることや、論理的思考を習得することに繋がることができた。また、講座には保護者とともに参加するようにしており、親子で楽しくロボットを製作していた。



制作の様子

● 産官学連携による人的資源の育成

＝エコミックガーデニングの視点から＝

エコミックガーデニングとは、アメリカのコロラド州リトルトン市で編み出された、地域経済の持続的成長を目指す新手法である。その名の通り、地域経済を「庭」、地元の中小企業を「植物」に見立て、地域という土壌を活かして地元の中小企業を大切に育成していく施策である。この施策は、税収の増加や雇用の創出など、地域に大きな経済効果をもたらす。近年では、日本においても様々な地方自治体で導入されている。

本シンポジウムは、昨年度に続き、2回目の開催となった。

自治体、企業、学生などによる、これまでの研究報告が行われ、エコミックガーデニングの知見を学術的論拠をもとに地域に広く発信させた。

本シンポジウムを通じて、産学官の取組を地域の皆様に知っていただき、地域の皆様との連携を更に進めていく。

● 阿波市元町マイクロツーリズムプロジェクト

阿波市民からなる「てくてく元町マイクロツーリズム実行委員会」や、同市にてまちづくりに取り組む児童らからなる「キッズまちプロ」(正式名称：子どもたちのすてきで楽しいまちづくりプロジェクト)と、本学理工学部都市デザイン研究室の学生らが連携・主体となり、同市元町エリアを歩いて楽しめる魅力あるまちに変えるべく、令和4年からフィールドワークや植栽ワークショップ等の取組を行っている。本年度は、上記ツーリズムのルートに含まれる「妖精の村」内にある「妖精の家」を対象に、修景を目的とする屋根の修繕作業を市民と共同で実施した。



作業風景

● 海部川流域文化継承プロジェクト

海部川の流域環境の保全改善に取り組む合同会社「ミツグルマ」と連携し、森田 稜也 講師(人と地域共創センター)のコーディネートのもと、本学理工学部所属の建築学を学ぶ学生たちからなる「建築サークルAUT」(指導担当：河村勝 技術専門職員)が主体となり、建築的側面から地域活性化に貢献することを目的に活動をしている。3年目となる本年度は、前年に壁の新装を行なった神社境内の食事室を引き続き対象として、床のリノベーションなどを実施した。



作業後の集合写真とリノベーション後の床

● 徳島県の高齢化をめぐる諸問題に関する一般市民への意識啓発事業

本事業は、全世代の県民が、高齢化にまつわる諸問題に対して主体的に行動できるよう、イベント開催を通じて意識啓発を促すことを目的に、有志市民並びに本学学生とともに実施している。本年度は、話題提供とグループワークから構成される大人向けのセミナーについては、認知症の主な症状への望ましい対応法をテーマとして、小松島市と松茂町の役場で実施した。また、絵本の読み聞かせと寸劇・クイズ等から構成される児童向けの認知症に関する意識啓発プログラムについては、毎回の反省をもとに内容を更新しつつ、徳島市・藍住町・松茂町・鳴門市の児童館、学童保育クラブ、公共図書館等で実施した。

● FILM CYCLE PROJECT

フィルムサイクルプロジェクトでは個人が記録した写真や8ミリフィルムなどのパーソナルメディアの収集と個人の記憶ストーリーの収集、GIS技術によるマッピングを行う活動で、本年作業分(セミプロとして活躍した方々のコレクション)を加算して通算1200本のフィルムをデジタル化し、その返却・上映会を開催している。令和6年度は、特に徳島銀座エリアにて撮影されたフィルムの収集及びデジタル化を行い地域での上映会を開催し、コンテクト収集を行った。また、戦前の徳島や阿波踊りの資料をもとにしたストーリーマップの作成を行い、GISコミュニティフォーラム マップギャラリー、ストーリーマップ部門にて宇宙航空研究開発機構(JAXA)や国立大学法人東京大学を抑え3位入賞を果たした。



図1 web「90年の時を超えた沈黙の踊り手たちから」:
砂川商店の位置を古地図から照合<https://arcg.is/1yKrmT>

● サイクルツーリズム講座

全国でサイクリングを楽しむ観光サイクルツーリズムが勢いづく中で、サイクリングを活用した地域活性化等に関心を持つ市民と協働して、徳島ならではのサイクルツーリズムのモデル、組織、人材づくりを目指す徳島大学サイクルツーリズム講座を、9月に開講し、関係者等約80名が参加した。